社会資本総合整備計画　中間評価書

平成２８年 ３月

計画の名称	安心・安全な歩行者経路の整備による回遊性向上と地域活性化		
計画の期間	平成23年度　～　平成27年度　（5年間）	交付対象	京都市

計画の目標

魅力のあるさまざまな集客施設を有する朱雀・本願寺地区において安心・安全な歩行空間を確保による回遊性向上と地域活性化を図る。

計画の成果目標（定量的指標）

・七条通の通行者数　　２０９０人（H22）→２５００人（H27）に増加
・歩行環境のイメージ　　２８％（H22）→１０％（H27）に減少
・来街者の滞在時間　　２４％（H22）　→３０％（H27）に増加
・公園利用者の滞在時間　　３２％（H22）　→４０％（H27）に増加

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値 当初現況値（H23当初）	中間目標値（H25末）	最終目標値（H27末）	備考
① 七条通の通行者数を計測する。（９時間）（七条通における３断面で計測した合計通行者数）	2,090人	—	2,500人	
② 歩行環境における歩きにくいと感じる人の割合（アンケート調査）	28%	—	10%	
③ 商店等での滞在時間が３０分以上である人の割合（アンケート調査）	24%	—	30%	
④ 公園利用者での滞在時間が1時間以上である人の割合（アンケート調査）	32%	35%	40%	

全体事業費	合計（Ａ＋Ｂ＋Ｃ）	328百万円	Ａ	200百万円（基幹事業） 28百万円（提案事業）	Ｂ	100百万円	Ｃ	0百万円	効果促進事業費の割合（Ａ（提案分）＋Ｃ）／（Ａ＋Ｂ＋Ｃ）	8.5%

事　後　評　価　（中　間　評　価）

○事後評価（中間評価）の実施体制、実施時期

中間評価の実施体制	中間評価の実施時期
本市において評価を実施	平成26年度～平成27年度
	公表の方法：本市ホームページにて公表

１．交付対象事業の進捗状況

交付対象事業

A1　道路事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名（事業箇所）	事業内容（延長・面積等）	市町村名	事業実施期間（年度） H23	H24	H25	H26	H27	全体事業費（百万円）	備考
1-A-1	都市再生	一般	京都市	直接	京都市	都市再生整備計画事業（朱雀・本願寺地区）	地域生活基盤施設他A=223ha	京都市						228	
								合計						228	

B　関連社会資本整備事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容（延長・面積等）	市町村名港湾・地区名	事業実施期間（年度） H23	H24	H25	H26	H27	全体事業費（百万円）	備考
1-B-1	道路	一般	京都市	直接	京都市		七条通　道路修繕事業	舗装修繕　L=550m	京都市						100	
									合計						100	

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考

C　効果促進事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費（百万円）	備考
										H23	H24	H25	H26	H27		
												合計				0

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

２．事業効果の発現状況、目標値の達成状況

Ⅰ定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況

・多くの観光資源や特徴的な施設を有し，潜在的に魅力を持つ「朱雀・本願寺地区」において，各施設へ誘導する案内や歩行者経路の整備により安心・安全な歩行空間を確保し，回遊性向上と地域活性化を図りながら，定量的指標の中間実績として目標値を達成することができた。

Ⅱ定量的指標の達成状況

指標④　公園利用者での滞在時間が1時間以上である人の割合		目標値と実績値に差が出た要因
中間目標値	35%	梅小路公園内において水族館の開業と広場の再整備が行われたため。
中間実績値	63.75%	

Ⅲ定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況（必要に応じて記述）

３．特記事項（今後の方針等）

・引き続き，京都市内全域において，安心・安全な歩行空間を確保することによる回遊性向上と地域活性化を推進していく。